

令和4年度 東京都立埋蔵文化財調査センター 指定管理事業報告

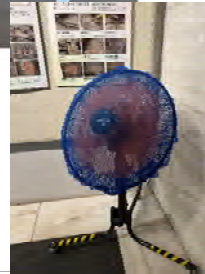
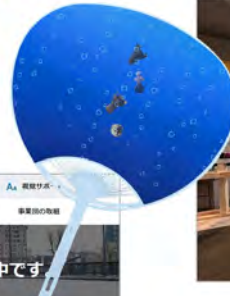


令和5年7月26日
公益財団法人東京都教育支援機構
東京都埋蔵文化財センター

令和4年度の指定管理事業について説明します。

冷房設備故障と様々な対策

- ・移動式大型仮設クーラー及び屋外発電機の導入
- ・スポットクーラーの設置
- ・大型サーキュレーターによる換気の強化
- ・お詫びと告知掲示(HP・施設入口)
- ・うちわの配布(熱中症対策)



まず、令和4年度事業に大きな影響があった、冷房設備故障後の対応とその影響について説明します。

令和4年7月5日(火)朝、冷房設備が故障し、全館で冷房が停止しました。このため、メーカーへの修理依頼、教育庁への報告協議を速やかに行うと同時に、スポットクーラー7台を急遽購入しましたが、室内全体を冷房できるものではありませんでした。

翌日実施したメーカーによる調査の結果、部品の製作などが必要で、復旧までには最短で2カ月以上要するとともに、数百万円に及ぶ大規模な修繕となることも判明しました。

指定管理の協定では、指定管理者は30万円未満の軽微な修繕を行い、高額な修繕は都で行うことになっていますが、教育庁と協議の上、緊急措置として埋文センターで屋外発電機を使用した大型仮設クーラーを導入することを決定し、翌週からは2台の大型仮設クーラーによって一部冷房再開を実現しました。

故障した設備は夏の間は復旧しませんでした。冷房故障の告知とともに、大型サーキュレーターの設置やうちわの配布などを行いながら、開館を継続しました。

なお、冷房設備は、教育庁による対応の結果、翌令和5年1月17日に修繕が完了しました。

冷房設備故障による影響

冷房運転停止期間: 令和4年7月5日から令和4年10月10日(冷房運転予定期間の最終日)まで

※冷房設備修繕完了日: 令和5年1月17日

臨時休館日数: 計15日【猛暑日9日(8月)、台風4日(8月)、工事検査2日(1月)】

中止した行事数: 11事業、延20回



年度別月別利用者数

年度別 \ 月別	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
元年度	6,014	3,818	1,882	2,307	2,496	2,018	1,606	2,015	1,849	1,508	1,751		27,264
前年同月比	108.81%	92.44%	78.7%	146.7%	120.6%	133.8%	100.4%	86.3%	127.4%	135.5%	104.7%		112.3%
2年度			625	1,564	1,969	1,655	1,498	1,619	1,122				10,052
前年同月比			33.2%	67.8%	78.9%	82.0%	93.3%	80.3%	60.7%				36.9%
3年度			1,741	1,685	1,628	1,372	1,475	1,854	1,391	371		544	12,061
前年同月比			278.6%	107.7%	82.7%	82.9%	98.5%	114.5%	124.0%				120.0%
4年度	1,833	2,468	2,868	1,573	1,062	1,503	1,979	1,476	1,397	1,230	1,631	1,066	20,086
前年同月比			164.7%	93.4%	65.2%	109.5%	134.2%	79.6%	100.4%	331.5%		196.0%	166.5%
5年度	1,687	2,978	2,812	743									8,220
前年同月比	92.0%	120.7%	98.0%	47.2%									40.9%

冷房設備故障の影響です。

仮設クーラーは、会議室や実習室までカバーできるものではなく、やむなく夏休みの親子行事をすべてと、文化財講演会など、11事業、延20回の行事を中止せざるを得ませんでした。

また、猛暑日9日、台風接近4日のほか、冷房設備修繕工事の検査のために2日、合計15日にわたって臨時休館せざるを得ませんでした。

しかしながら、指定管理者の柔軟性を生かして、最小限の影響にとどめることができました。

発掘調査事業との一体的管理①

発掘調査事業

都内全域:23件
受託金額:約30億円
調査研究員数:46名



学識
・
経験

指定管理事業

実際に発掘調査に携わる多数の調査研究員が質の高い展示・体験教室・講演会などを行う。



続いて、ここからは、3つの基本方針に即して説明します。

3つの基本方針とは、指定管理業務を受託するにあたって、公益財団法人東京都スポーツ文化事業団東京都埋蔵文化財センター（当時。以下「当センター」という。）が定めたもので、「発掘調査事業との一体的管理」、「多様な企画事業の実施」、「適切な施設管理」です。

まず、「発掘調査事業との一体的管理」についてです。

当センターは、発掘調査事業を都内全域で展開し、考古学の専門家である調査研究員46名が、埋蔵文化財の発掘調査と記録保存を行っています。

発掘調査でつちかった学識と経験を、指定管理事業にいかしています。

発掘調査事業との一体的管理②

おかびと
常設展示『丘陵人の宝もの～遺跡から見た多摩丘陵の歴史～』

調査研究員が、展示する土器などを選別し工夫を凝らして展示



常設展示では、当センターが所蔵する多摩ニュータウン遺跡の埋蔵文化財を活用し、「丘陵人の宝もの」と題して時代順に展示しています。

この展示は、多摩ニュータウン遺跡調査にあたった調査研究員が、展示方法に工夫を凝らし、解説を加えたもので、発掘調査事業と一体となった当センターならではのものです。

発掘調査事業との一体的管理③

遺跡発掘調査発表会(会議室)

遺跡発掘調査発表会2021 62名
遺跡発掘調査発表会2022 83名



遺跡見学会(発掘現場)

「小金井市No.22遺跡」 501名
「世田谷区下野毛遺跡」 31名
「港区No.119・218遺跡」 58名



埋蔵文化財に関する理解をより深めていただくため、調査に携わった調査研究員が、その成果を解説する「遺跡発掘調査発表会」、こちらは、令和3年度に新型コロナウイルス感染拡大防止のための臨時休館で中止となった2021の延期開催を含めて2回を開催し、145名が参加されました。

また、遺跡見学会を開発事業者の協力を得て実施しました。遺跡見学会は「小金井市No.22遺跡」ほか3遺跡で開催し、590名が参加されました。

発掘調査事業との一体的管理④

「今月の逸品コーナー」で発掘中の速報展を実施

「豊島区長崎一丁目周辺遺跡」大正～昭和初期の資料(碗・急須・化粧道具・ガラス管・真空管・骨董品)



毎月展示替えを行う「今月の逸品コーナー」では、速報展示として、豊島区長崎一丁目周辺遺跡」の大正～昭和初期にかけての資料などを紹介しました。

発掘調査事業との一体的管理⑤

より専門的な体験をしていただく「考古学講座」

調査研究に携わる調査研究員が専門的な体験を直接指導



また、考古学講座として、「遺構・遺物にみる時間の流れ」と題して、現場や遺物の状況から時間的な新旧関係を捉える方法を学び、「遺構土層断面の分層」や「石器の実測」について実習していただきました。

発掘調査事業との一体的管理⑥

展示ホール以外も活用

お客様に大人気の体験コーナー（調査研究員がほとんどの体験用具を作成）



江戸遺跡の発掘調査成果に関する展示

福島県復興支援事業に関する展示



展示ホール以外の廊下なども、わたくしたちが調査した江戸遺跡の調査成果や、東日本大震災復興支援事業の展示のほか、大人気の体験コーナーなどに活用しています。

令和4年度は江戸遺跡コーナー解説などをリニューアルしたほか、汐留遺跡の展示品を増やしました。

多様な企画事業の実施①

令和4年度企画展示『境・道・恵 -多摩丘陵の3つの顔-』

「境」「道」「恵」の3つの視点から多摩丘陵の多様なあり方についてわかりやすく紹介
当センターにお越しただけでない方に向けて、特設サイトも公開しました。



次に、「多様な企画事業の実施」についてです。

令和4年度は、工夫を凝らした各種展示のほか、25事業、52回に及ぶイベントを計画しましたが、冷房故障によって延べ20回は中止せざるを得ず、実施できたのは、15事業34回、イベント参加者は延べ824名でした。

令和4年度の企画展示は、「多摩丘陵の三つの顔」をテーマに、多摩丘陵について、「境」「道」「恵」の3つの視点から、地形や人々の動き、豊かな資源の側面から展示しました。

当センターでは、展示やイベントの企画は全て調査研究員が行っていますが、この展示も、経験豊かな調査研究員たちが、模型を作って企画構成しました。

また、当センターに来館できない方に向けて本企画展示の特設サイトも公開しました。

多様な企画事業の実施②

東京文化財ウィークに合わせた都指定文化財等の特別展示



教育庁が行う東京文化財ウィーク2022に合わせ、多摩ニュータウンNo.9遺跡を中心とした出土品の中から東京都指定文化財に指定されている土偶に焦点を当てて展示しました。

多様な企画事業の実施③

体験型イベント

トンボ玉作り 縄文の布作り 縄文の糸作り 勾玉・耳飾り作り など



続いて様々なイベント（企画事業）についてです。

初めに、「トンボ玉作り 縄文の布作り 縄文の糸作り」などの体験型イベントです。

職員が栽培した「カラムシ」という植物を刈り取って材料とする糸作り、職員が作った織物機を使った布作りなど、当センターならではの数々の体験教室は、お客様からも非常に好評です。

多様な企画事業の実施④

遺跡庭園「縄文の村」を解説する「遺跡庭園解説会」や、学芸員による展示解説など



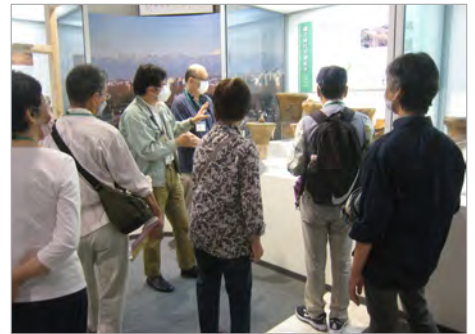
遺跡庭園解説会



企画展示解説



文化財ウィーク特別展示解説



学芸員ギャラリートーク

続いては、遺跡庭園「縄文の村」や様々な展示を解説する行事です。

「遺跡庭園解説会」は、都の史跡である多摩ニュータウンNo.5 7 遺跡を解説するとともに、植生復元の考え方や、遺跡の保存などについても解説しました。

文化財ウィーク特別展示解説、ギャラリートークなど、いずれも発掘調査の専門家である調査研究員が解説し、大変好評でした。

多様な企画事業の実施⑤

会議室を使用する講演会など

冷房設備故障のため、夏季の行事は全て中止せざるを得ませんでした。開催時期を問わない文化財講演会などは、講演者と調整を重ね、自主事業の講演会と日程調整するなどして開催しました。



文化財講演会



遺跡発掘調査発表会2022



映像上映会

続いて、会議室を使用する、「文化財講演会」・「遺跡発掘調査発表会」・「映像上映会」などです。

冷房故障に伴い中止せざるを得なかった回を日程変更してできる限り開催しました。

多様な企画事業の実施⑥

外部との連携事業



わくわくびじゅつあ〜



子ども大学たま



北区ジュニア考古学クラブ2022
(於:大塚分室)

外部との連携事業です。

令和4年度は、北区飛鳥山博物館、(公財)東京観光財団、多摩センター地区連絡協議会関連2団体など8団体と計11回の事業を行い、422人に参加いただきました。

夏休みの親子行事の多くが中止となってしまいましたが、未就学児や小中学生に向けた連携事業を多く行いました。

多様な企画事業の実施⑦

学校教育と連携した取組

小学校団体見学



出前授業



職場体験



学校教育との連携として、団体見学受入のほか、出前授業も行いました。学校まで出向き、勾玉作りや火おこし体験などを通じて埋蔵文化財に親しみ、その保護について理解を深めていただきました。また、職場体験を受け入れて、埋蔵文化財の保護活用などに関する体験をしていただきました。

多様な企画事業の実施⑧

学校教育と連携した取組2

大学連携の見学や博物館実習等

No.	実施日	学校名	内容	参加者数
1	6月18日(土)	桜美林大学	博物館実習	4名
2	6月25日(土)	白梅学園大学	博物館実習	3名
3	7月2日(土)	桜美林大学	博物館実習	5名
4	7月9日(土)	帝京大学文学部史学科	博物館実習	7名
5	7月11日(月)	東京学芸大学生涯学習コース	見学	5名
6	7月13日(水)	中央大学	博物館実習	7名
7	7月16日(土)	桜美林大学	博物館実習	2名
8	9月10日(土)	桜美林大学	博物館実習	2名
9	9月16日(金)	女子美術大学	見学	17名
10	10月17日(月)	中央大学小林ゼミ	授業	50名
11	10月22日(土)	大正大学実習	博物館実習	37名
12	11月14日(月)	恵泉女学園大学	授業	38名
13	11月26日(土)	学習院大学	見学	11名
14	12月3日(土)	東京都立大学	博物館実習	20名
15	12月17日(土)	東海大学考古学専攻生	授業	3名
16	1月21日(土)	昭和女子大	見学	19名
	合計			230名

大学連携のインターンシップ

No.	実施期間	学校名	参加者数
1	8月22日～8月26日	東京都立大学 現場体験型インターンシップ	1名
2	9月5日～9月9日	中央大学	1名
	合計		2名

教職員に向けた研修

No.	実施日	団体名	参加者数
1	10月25日(火)	東京都教職員研修センター (9月に30名×3日計90名で予定したが、凍原設備故障により中止し、10月に別な事業を参入)	12名
2	1月11日(水)	調布市社会科教員	30名
	合計		42名

大学教育と連携した取組みでは、授業の見学や博物館実習など、12の大学、計230名を受入れました。また、インターンシップも受入れました。

令和4年度は2校、2名が参加しました。いずれも埋蔵文化財に係る講義と、発掘現場の体験を中心に実施しました。

このほか、教職員に向けた研修も受け入れており、令和4年度は、東京都教職員研修センターの事業のほか、調布市の社会科教員30名を受け入れました。

適切な施設管理①

さまざまな施設修繕工事の実施



件名	内容等	目的・原因等
1 トイレフラッシュバルブの取替	漏水した2階女子トイレ便器のフラッシュバルブを取替	経年劣化による修繕
2 洗面台排水管の取替	漏水した2階女子トイレ洗面台の排水管を取替	経年劣化による修繕
3 庭園ベンチの修繕	遺跡庭園内のベンチ腐食箇所を取替	経年劣化による修繕
4 屋上配管の取替	4F屋上の給湯用配管等の漏水箇所を取替	経年劣化による修繕
5 ボールタップの取替	屋上の膨張水槽内のボールタップを取替	経年劣化による修繕
6 汚水樹清掃	敷地内汚水樹8か所を高圧洗浄し、詰まりを解消	樹木等の根詰まりによる排水不良解消
7 防犯カメラレコーダーの修繕	不具合が発生した防犯カメラのレコーダーを交換	経年劣化による修繕
8 自動ドアの横ガラス枠修繕	展示ホール入口の自動ドアガラス枠のゆがみを補修	経年劣化による修繕
9 蒸気バルブパッキン取替	蒸気漏れを起こした機械室内のバルブパッキンを交換	経年劣化による修繕
10 温度調節器の取替	故障した清掃員控室の温度調節器を交換	経年劣化による修繕
11 水道管バルブの設置	漏水防止のために庭園の水道管にバルブを新規で設置	漏水防止

次に、適切な施設管理についてです。

当センターは開館から38年がたち、様々な修繕が必要です。

4年度は各種排水管やトイレ、防犯カメラレコーダーや自動ドアガラス枠など11件の修繕工事を迅速・適切に実施しました。

適切な施設管理②

さまざまな施設設備の改善



件名	内容等	目的・原因等
1 排煙窓庇の設置	雨天時には閉じざるを得なかった展示ホールの排煙窓に雨庇を設置	雨天時の換気強化を目的とした館内換気機能の改良
2 誰でもトイレカーテン設置	誰でもトイレ内にカーテンを設置	利用者が介助者とともに入室した際のプライバシー確保を目的とした、ユニバーサルデザイン化推進
3 展示用アクリルケースの更新	鉄製品用の展示アクリルケースを新規製品に更新	収蔵品の保護機能向上を目的とした展示設備改良
4 ダクト引き込み用仮設窓枠の設置	仮設クーラー用の冷風ダクトを引き込むための仮設窓枠を開閉可能な窓2か所に設置	冷房故障に伴う、緊急対応
5 移動式仮設クーラー設置(賃借)	移動式の大型クーラー2台と発電機2台を1F屋外に設置	冷房故障に伴う、緊急対応
6 機械室足場の設置	B1機械室内で日常的に行う蒸気バルブ開閉作業用の足場を設置	設備職員の作業性及び安全性の向上
7 IT機器及びネットワークに関する委託	機器更新等によるネットワーク環境の改善	情報環境の安全性向上等

故障個所の修繕のほか、換気能力向上のための庇取り付け工事や、誰でもトイレの改善など、様々な施設改善を行いました。
仮設クーラーの設置もその一つです。

適切な施設管理③

ユニバーサルデザイン推進

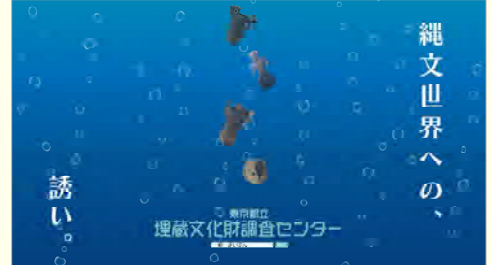
改善前



改善後



認知度向上の取り組み



ユニバーサルデザイン化としては、誰でもトイレの改善を行いました。毎年継続してきた遺跡庭園の通路を固まる土で舗装する工事などは、財政ひっ迫のため実施できませんでした。

施設認知度向上にも取り組みました。

多摩センター地区連絡協議会への参加を通じた駅貼り広告を年間にわたって掲示したほか、多摩センターの映画館で施設案内広告をお盆と正月の2回上映いたしました。

感染拡大防止のための様々な対策

施設の対策

飛沫感染防止シートの設置、アルコール消毒液の設置、定期的なアルコール消毒など基本的な対策を継続したほか、設備を改修して換気の強化を行いました。



新型コロナウイルス感染拡大防止対策として、アルコール消毒液の設置、定期的なアルコール消毒など基本的な対策を継続したほか、設備を改修して換気を強化しました。

年間利用者数

令和4年度利用者数は20,086名

利用者は20,086名、令和3年度比で約67%増
なかでも個人利用者は、1万4千人を超え、ほぼコロナ禍前の水準に

利用者区分	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
個人利用者	14,917人	14,756人	7,968人	9,965人	14,045人
行事参加者	3,892人	2,989人	254人	688人	843人
学校見学	7,933人	7,136人	1,261人	1,273人	4,057人
一般団体	1,005人	1,769人	268人	71人	630人
その他団体	718人	614人	301人	64人	511人
団体計	13,548人	12,508人	2,084人	2,096人	6,041人
合計	28,465人	27,264人	10,052人	12,061人	20,086人



年間利用者数についてです。

令和4年度は、冷房設備故障などにより、延15日間臨時休館しました。

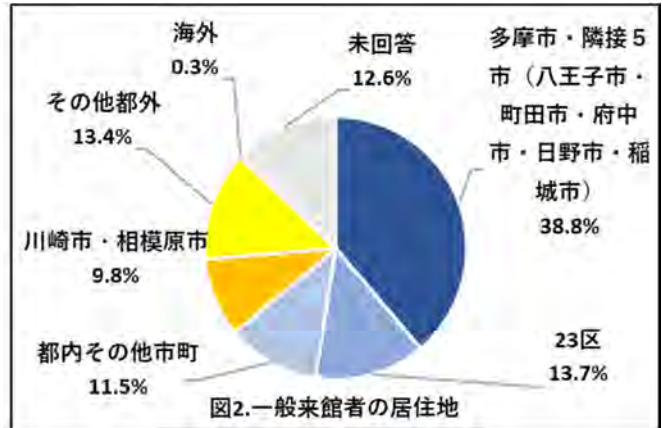
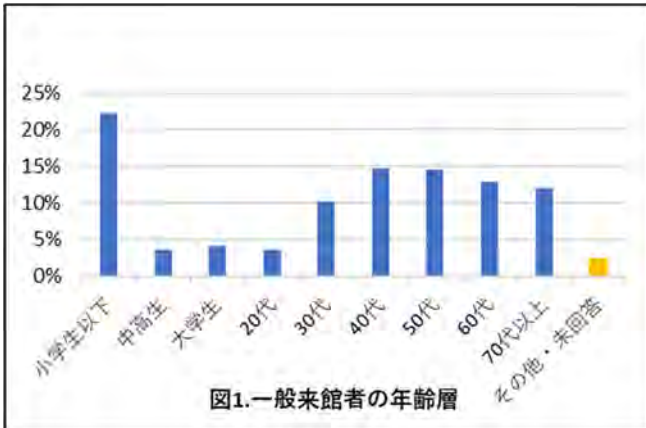
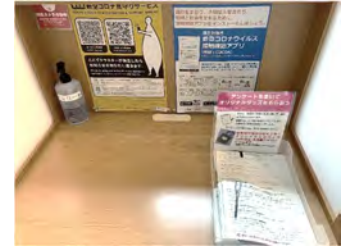
しかしながら、新型コロナウイルス対策による臨時休館が無かったことなどから、利用者は2万86名、令和3年度比で約67%増加しました。

団体利用は依然として少ない状況が続いていますが、個人利用者は、1万4千人を超え、ほぼコロナ禍前の水準に戻りつてあります。

なお、小学校の団体見学は、カリキュラム変更の影響もあって、コロナ禍以前の半数程度にとどまっています。また、この傾向は今後も続くものと思われます。

お客様の声 ❶

アンケート結果（一般来館者の特性）



最後に「お客様の声」についてです。

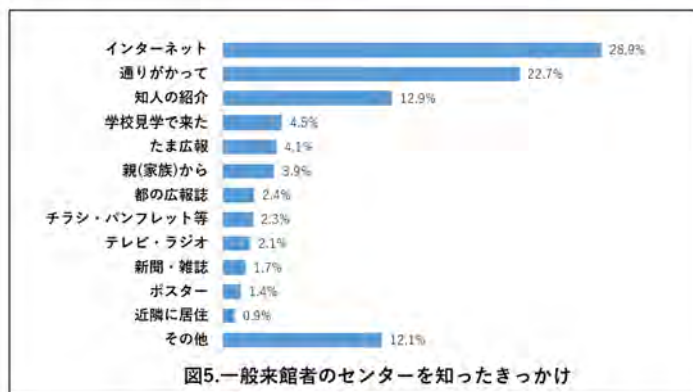
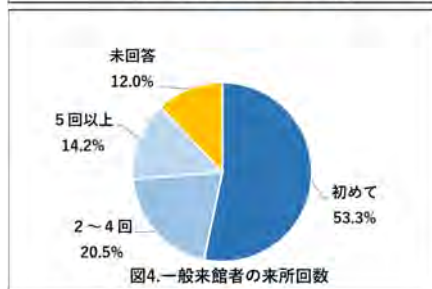
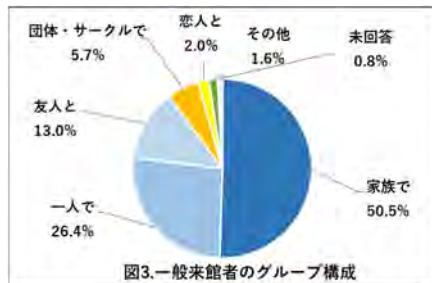
まず、一般来館者のアンケート結果です。

年齢層は、昨年度と同様に小学生以下と30代以上の方が多くなりました。

どこからいらしたかとの問いについてもほぼ昨年度と同様でしたが、海外からのお客様が約3倍に増加しています。

お客様の声②

アンケート結果（一般来館者の特性）

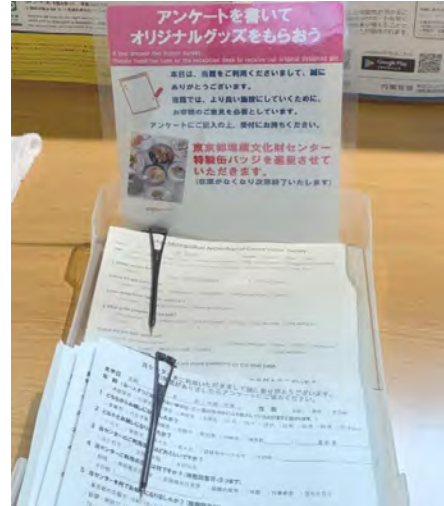
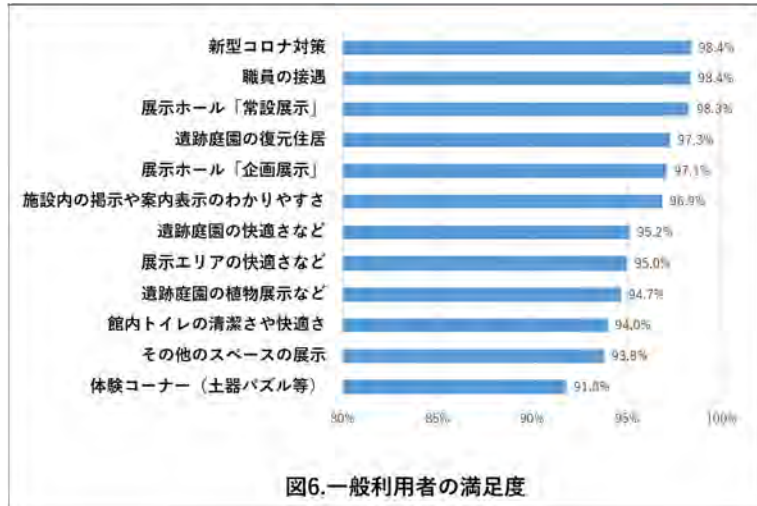


グループ構成は、昨年度とくらべて、「団体・サークル」でが、2%から5.7%と増えた一方、「家族で」が6割から5割に減りました。新型コロナウイルスの影響が少しずつ収まってきたことと関係しているものと思われます。

来所回数及び当センターを知ったきっかけは、昨年度とほぼ同様の結果となりました。

お客様の声③

アンケート結果（一般来館者の満足度）



一般来館者の満足度は、各項目とも90%以上の評価をいただきました。特に新型コロナウイルス感染拡大防止対策は、最も高い評価をいただきました。

お客様の声④

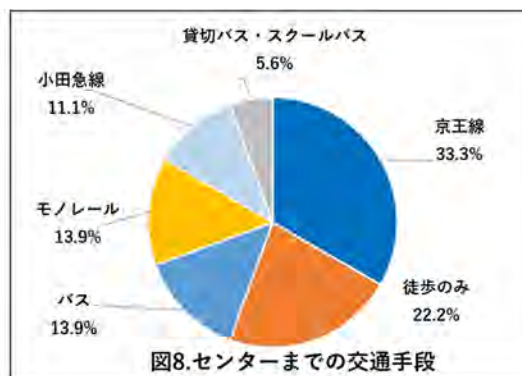
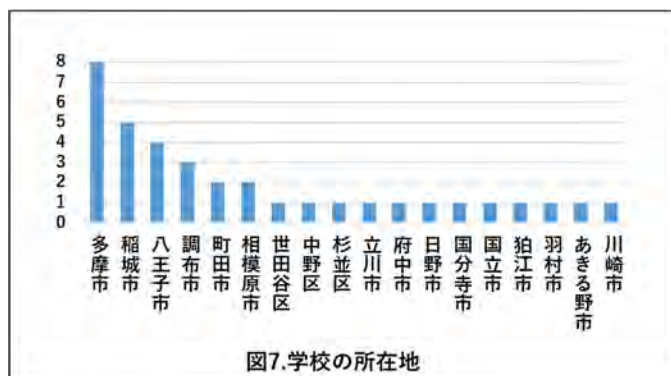
アンケート結果(小学校等団体見学)



	学校数	アンケート回答数
小学校	44校	36件
中学校	13校	0件
高等学校	2校	0件
合計	59校	36件

令和3年度

	学校数	アンケート回答数
小学校	16校	14件
中学校	4校	0件
高等学校	1校	1件
回答重複数	—	2件
合計	21校	17件

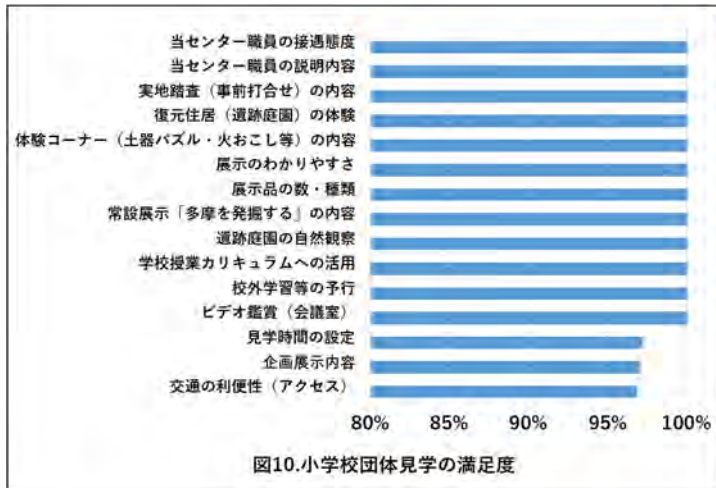


次に、学校団体見学のアンケート結果です。

学校における新型コロナウイルス対策の変化に伴い、見学校数は昨年度21校に対し59校と大幅に増加しました。また、近隣以外の学校見学も増加しています。

お客様の声⑤

アンケート結果(小学校団体見学)

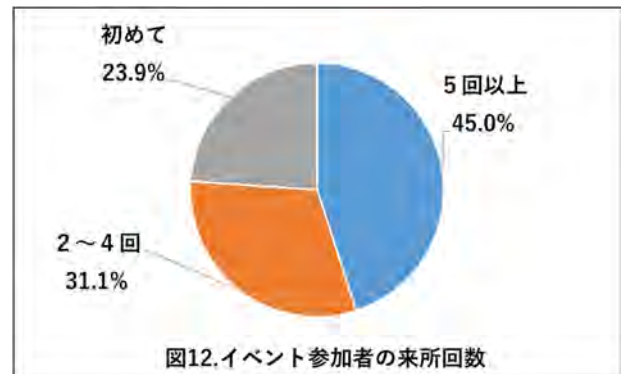
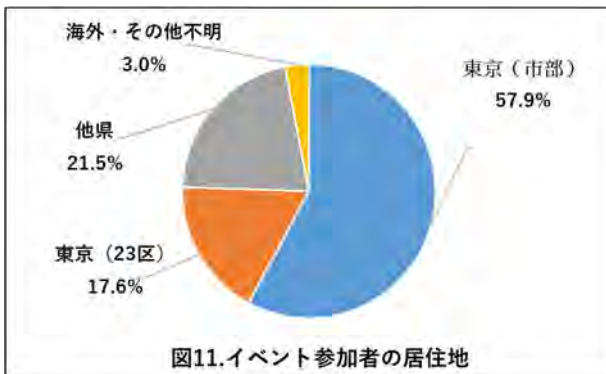


学校見学では、100%の満足度をいただいた項目が、昨年度なみの11項目となりました。

三密を避けるための少人数でのご案内など、丁寧な打ち合わせを行った結果と考えています。

お客様の声⑥

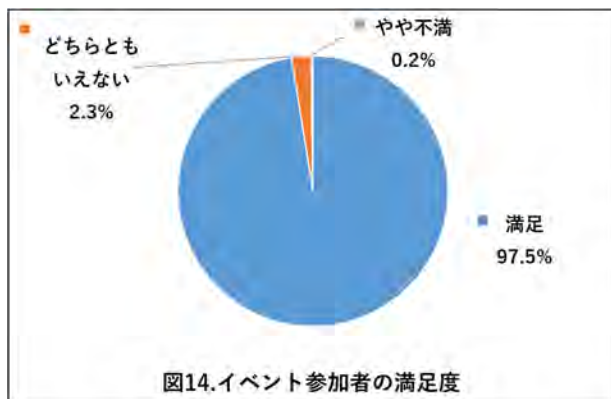
アンケート結果（イベント参加者）



次にイベント参加者のアンケート結果です。
昨年度とほぼ同様の結果となりました。近隣の方が多く、都内からが約75%にのぼり、その多くはリピーターの方でした。

お客様の声⑦

アンケート結果(イベント参加者)



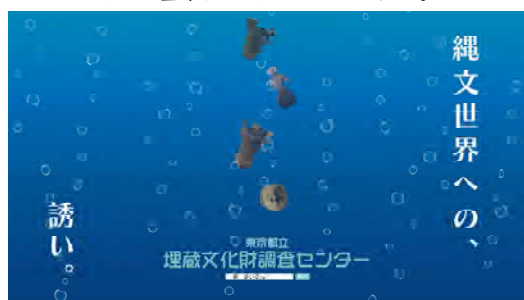
イベント満足度は97.5%と昨年度の92%を超えました。職員の対応の満足度98.8%と昨年度の97.9%を超えました。

お客様の声を活用した事例

庭園植物の表示をできるだけ多くしてほしい。



もっと宣伝したらいかがですか。



庭園は虫が多いので何か対策していただけたら嬉しい。



自主的な改善



お客様の声を活用した事例をいくつか紹介します。
ご意見を受けて、植物の表示を職員が作成して追加しました。
また、庭園のやぶ蚊対策も実施しています。



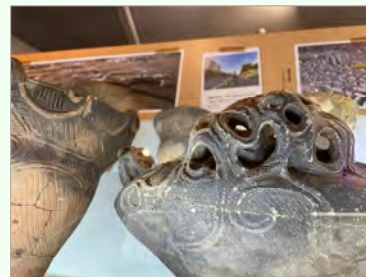
基本情報

名称	公益財団法人東京都教育支援機構 (Tokyo Education Promotion and Support Organization)
略称	TEPRO (ティープロ)
理事長	坂東 真理子 (学校法人昭和女子大学総長)
機能	(1) 多様な外部人材を安定的に確保する機能 (2) 教員サポート機能 (3) 学校の事務センター機能
設立日	令和元年7月1日
所在地	〒164-0011 東京都中野区中央1-38-1 住友中野坂上ビル11階
電話	03-5989-1601 (代表)

沿革

令和元年7月1日	「一般財団法人東京学校支援機構」設立
令和4年4月1日	「公益財団法人東京学校支援機構」へ移行
令和5年7月1日	「公益財団法人東京都教育支援機構」へ名称変更

令和5年度企画展示



最後に、埋蔵文化財事業の移管についてです。

東京都埋蔵文化財センターが担ってきた埋蔵文化財事業及び、その組織と人員は、令和5年4月1日をもって、公益財団法人東京都スポーツ文化事業団から公益財団法人東京学校支援機構に移管されました。

東京学校支援機構は、令和元年7月1日に設立された、教育庁が主管する東京都の政策連携団体で主として学校や教員のサポートを行ってきました。

また、埋蔵文化財事業の移管を受け、去る7月1日には法人名を公益財団法人東京都教育支援機構に改めました。

令和4年度は事業移管に向けた様々な調整と取組を行ってまいりましたが、滞りなく完了いたしました。

法人は変わりましたが、東京都埋蔵文化財センターはこれまで同様に、たゆまぬ努力と業務の見直しを重ねながら事業を行ってまいります。

なお、令和5年度の企画展示は、「多摩新街（ニュータウン）遺跡切抜帖一新聞にのった遺跡たち」と題して、964か所に及ぶ多摩ニュータウン遺跡の中から、かつて新聞紙面を飾った遺跡や遺物を当時の記事とともに紹介し、多摩ニュータウン遺跡の価値を再認識していただく展示です。